# 平成12年度研究構想図

〈園の教育目標〉

○自力で遊びをみつける子ども
○心ゆくまで遊びきる子ども
○友だちとなかよく遊ぶ子ども
○豊かな感性と心情をもつ子ども

園周辺の環境 →
本園の子どもの実態 →
家庭の実態・保護者の願い →

〈研究主題〉

**子どもと共に創る生活**

〈副主題〉

期にふさわしい生活を求めて

← 中央教育審議会答申
← 教育課程審議会答申
← 幼稚園教育要領

〈研究のねらい　～第2年次～〉

3年間あるいは2年間の課程を通して、各期の発達にふさわしい経験を積み重ねていく生活を子どもと共に創っていく。

〈研究の仮説〉

一人ひとりの子どもの発達の過程に目を向け、ふさわしい時期時期の生活に向けてさまざまな人との連携の中で環境を構成し、援助していけば、
・自分の願いやめあてをもって遊びを追求していく姿や力
・いろいろな友だちの思いやよさを受けとめ響きあって生活していく姿や力
が育っていくであろう。

〈具体仮説〉

| 各論1 | 各論2 | 各論3 | 各論4 |
|---|---|---|---|
| 多様な人とのかかわりの中で子どもがありのままの自分を表わしながら経験しているその過程を大切にし、援助していけば、子どもは人への信頼感を深めながらより自分の存在感を見いだしていくであろう。 | 子どもたち一人一人が園生活の中で友だちとかかわりながら自己表出していく姿を見つめ、その中で経験していることに保育者自身が立ち止まり、お互いの思いを受けとめていくきっかけになるよう支えていけば、子どもたちの中で柔軟に受け入れ合うかかわりや心情が広がっていくであろう。 | 入園後の母子分離不安を強く表す子どもの場合、母親の日常的な保育参加と保育者、保護者の子ども理解のための連携カンファレンスによって母と子双方の分離への不安を解消し、より確かな自立感を培っていくことが出来るのではないか。 | 子どもたち一人ひとりの願いや思いを保育者がしっかりと受けとめながら、学級の友だちとの気持ちのつながりを育んでいくための援助をしていけば、子どもたちは、学級の中で自分の持ち味を発揮していくであろう。 |
| **各論5** | **各論6** | **各論7** | **各論8** |
| 子どもたちのさまざまな欲求や思いを受けとめながら、その中で期にふさわしい願いやめあてを価値づけたり支えたりすることで、子どもたちは自分の願いやめあてをもち、より追求的に活動しようとしたり友だちと考えを出し合ったりしていこうとするだろう。 | 遊びの中で発生する様々なけんかや葛藤を体験し、様々な人とかかわりながら乗り越えていく経験をした子どもたちは自らの力で問題解決していく能力を発達させていくのではないか。 | 「保健室における子どもとのかかわりと役割」<br>－保育と養護教諭との連携－ | 「家庭・子ども・幼稚園が響き合いながら歩む幼稚園を求めて」 |

〈追求の視点〉

○一人ひとりの発達の特性と課題を探り、活動の中で経験している内容との関連から、いま個々に必要な経験とは何かを明らかにする。
○「学級で共有する内容」と「場」が個々の心情・意欲・態度にどのような影響をもたらしているか。
○学級や学年の枠を越えた子ども同士のかかわりや相互作用によって、活動や経験がどのように広がり、深まっていくのか。
○子どもと保育者と保護者、保護者同士が共有感をもって生活していくため、具体的にどのように連携し、環境を構成していけばよいか。
・一人ひとりの子どもの発達の相互理解のために
・園の生活や活動を共有していくために
・子育ての喜びや時期時期の課題を共有するために

仮説の検証・成果と課題